

万亭應賀作

外題曲五回

上

13
3785
91



門へ13
3785
91

西の考のたえん

縁重半梓

欠海と
ふんこ

四折六庫

上の巻

万々子意賀作

奇川園貞画



釋迦八相倭文庫四拾六編序

大佛願首抄嚴經の阿難因乞食次經麻止姪室遭摩

鄧伽以辨毘羅咒攝入姪席如來頂光宣說神咒文殊

耶利將咒在護下云此外小乘部の異釈多故茲の

塵鄧女經を以て解畧一巻小佛説光明童子

因縁經一部四巻乃説たゝが大善權經又雜審藏經

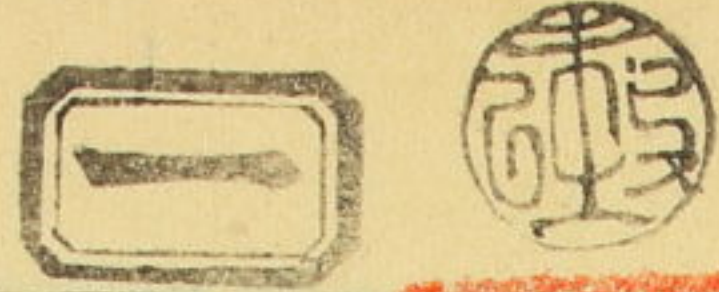
の説等々混雜一々如來乃威徳を假名章より輝く

法燈をかりて多しといふこの愚蒙は暗鈍を明らふ

ふさんこゆをたのふ

萬延二年
辛酉初春

万亭應心賀誌



火光明童子誕生

世尊

本説小外道

尼乾陀と

茲の提婆也

摹擬也

光明童子因縁經

一部四卷中畧

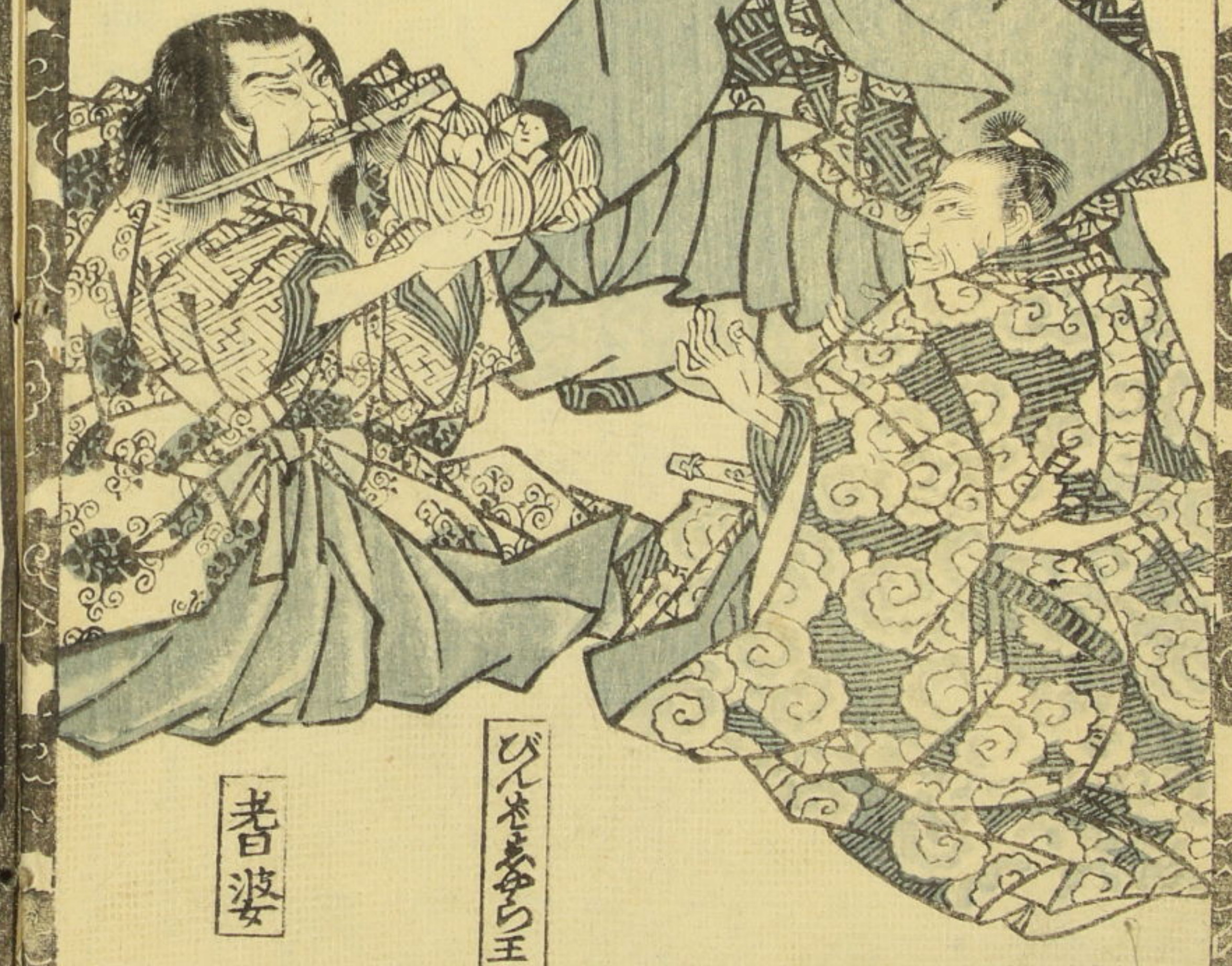
有長者名曰善賢其妻

懷妊問世尊佛曰汝妻

胎中決定是男子於人中

受天勝福其後外道

以毒藥害母子遂



びんぎやまの王

者婆

送尸陀林世尊命者婆
從火中得故火光亦
樹提童子共云あり

重勝王菩薩爲阿難
現于神足開其疑誦



大善權經

上卷云

阿難

見有開士

名重勝王

在他室

坐與

女人

同

牀阿難云

犯穢時重

勝王即自踊身

住於空中去地

四丈九尺ト云



戒因緣經第四 文畧

舍利弗大目犍連從耆闍

崛山入羅閱城分衛道逢

暴雨入石室避雨有

牧牛女人入先避

雨臥失精舍

利弗等尋出

去見是提婆

弟子瞿

迦離仍懷

惡心惡瘡

生遂墮

地獄

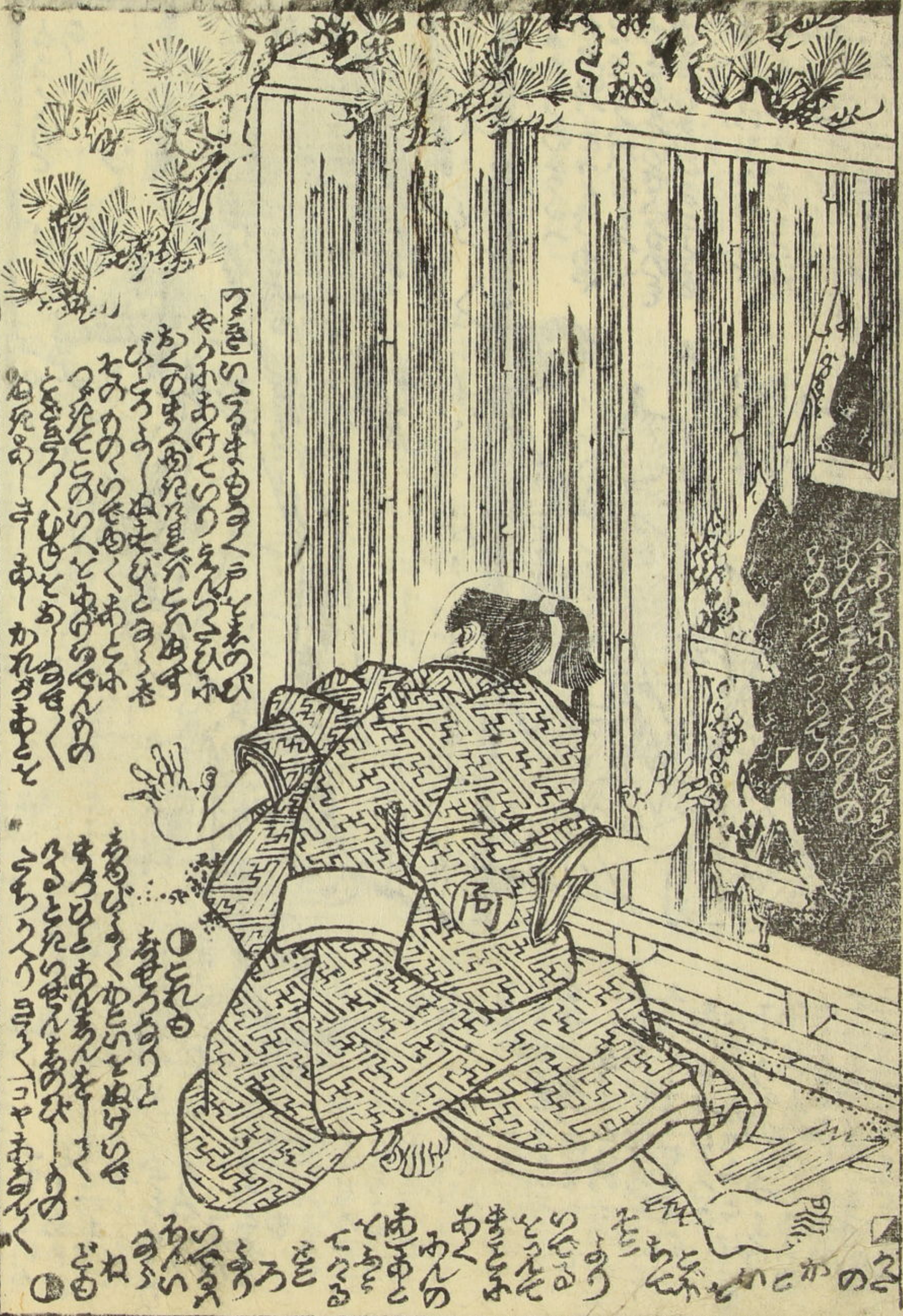


舍利弗

目蓮

九加利





あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの

あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの

あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの



あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの

あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの

あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの
あつちのうらやまの

